



第24回 ミニ・バスケットボール大会 (12月5日)

お気軽においでください
市民と市長の「よもやま話」の日

2月28日(月)・午後1時30分から
時間等については御相談ください。

【受付・問い合わせ】 市役所3階 総務課広報広聴係
(☎52-0080 内線331)
までお願いします

主な内容

- 小池市長市政報告…………… 28
 - ・新しい「防衛計画の大綱」の
基本哲学に対する意見書
- 平成16年度上半期の財政状況…………… 9
- 2004加茂市のできごと…………… 10 11
- 民生・児童委員の紹介…………… 12 13
- 加茂の風土記…………… 14

市政報告

加茂市長 小池 清彦

新しい「防衛計画の大綱」の基本哲学に対する意見書を内閣総理大臣ほかの全閣僚と全国会議員に提出いたしました。

昨年十二月十日、新しい「防衛計画の大綱」が閣議で決定されました。

この大綱の基本哲学を示したのが、十人のメンバーから成る「安全保障と防衛力に関する懇談会」の報告書であります。（事務局は、内閣官房に置かれました。）

この基本哲学は、海外派兵を自衛隊の本来任務として恒常化し、やがて徴兵制によ

訂正とおわび

広報かも十一月号（No.581）の「加茂市市制施行五〇周年記念式典」五ページ中の写真説明で「渡辺秀央 参議院議員」の表記が誤っております。訂正して深くおわびいたします。

り日本人が海外で血を流す悲劇へとつながる一方で、わが国の防衛力を大幅に縮減して一段と対米依存度を高め、日本を「アメリカの弱いポチ」にする極めて危険なものと考えます。

そこで私は、去る十二月七日「意見書」を作り、内閣総理大臣以下の各閣僚と全国会議員の皆様にお送りさせていただきました。

私の意見書の全文を掲載させていただき、市民の皆様には御一読いただければ、ありがたいと存じます。

内閣総理大臣	小 泉 純一郎 様
防衛庁長官	大 野 功 統 様
内閣官房長官	細 田 博 之 様
外務大臣	町 村 信 孝 様
財務大臣	谷 垣 禎 一 様
各国務大臣	様
各衆議院議員	様
各参議院議員	様

元防衛庁教育訓練局長・防衛研究所長

新潟県加茂市長 小 池 清 彦

意 見 書

要旨：○ 新しい防衛計画の大綱の作成の基本となる「安全保障と防衛力に関する懇談会の報告書」は、やがて徴兵制につながるであろう対米追従海外派兵を自衛隊の本来任務として恒常化する一方で、わが国の防衛力を大幅に縮減して一段と対米防衛依存度を高め、その結果ますます日本をいわゆる「アメリカのポチ」にすることになる極めて危険なものと考えます。

これは、良好な日米関係を維持する上でも、決して好ましいことではないと考えます。

○ 自衛隊のイラク派遣期間は延長せず、全員無事である間に撤退を行われますよう衷心よりお願い申し上げます。自衛隊員の身になって、勇気ある決断をお願い申し上げます。

1 新しい防衛計画の大綱を作る際の基本的な考え方を策定するため、小泉総理によって設けられた「安全保障と防衛力に関する懇談会」は、小泉総理の基本哲学の上に立って、本年10月報告書を作成し、発表いたしました。

2 この報告書の大きな柱の1つは、海外派兵の自衛隊の本来任務としての恒常化であり、2つ目の大きな柱は、防衛力の大幅な縮減であります。

3 防衛庁・自衛隊が発足して以来、いくつかの防衛哲学が発表され、それに基づいて、わが国の防衛政策が進められて参りましたが、このたびの報告書の考え方ほど露骨で、国の安泰と国民の幸福にとって危険なものは、ありません。

4 海外派兵の自衛隊の本来任務としての恒常化について

(1) まず、この報告書は、「国際平和協力活動は、自衛隊の付随的任務として位置付けられてきたが、そうした活動の重要性の増大にかんがみれば、自衛隊の本来任務として位置付けるべきである。」と述べています。

(2) そしてさらに、「自衛隊はこれまで人道復興支援と後方支援に従事してきたが、・・・いわゆる治安維持のための警察的活動の実施をも視野に入れるのか、政府において十分検討すべきである。」と述べています。

(3) そしてさらに「国際平和協力のための一般法の整備を検討すべきである。」と結んでいます。

(4) 現在のイラク特措法は、国と国との間の即ち正規軍同士の戦闘のみを「戦闘行為」と定義し、不正規軍即ちゲリラとの戦闘は「戦闘行為」ではないとして、武装した自衛隊をイラクに派遣しており、この法律は、明らかに憲法違反の法律であります。即ち、現在のイラク特措法では、いかにし烈な戦闘が行われようとも、イラク全土が「非戦闘地域」なのであります。従って、小泉総理は、これまでサマワの自衛隊は何回もゲリラから砲弾による攻撃を受けているにもかかわらず、サマワは非戦闘地域であるとして、さらに派遣の期限を延長しようとしておられるのであります。

(5) イラク特措法上の自衛隊の任務の1つは人道復興支援であり、いま1つが後方支援であります。この2つでも問題があるのに、この報告書は、「治安維持のための警察的活動」即ち、米軍が現在イラクで行っていると同じ活動を加えることを政府において十分検討すべきだといっているのであります。即ち、これを加

えよということを婉曲に述べているのであります。

- (6) 報告書は、このようにして自衛隊が、本来の任務として、海外で、現在米軍がイラクで行っているのと同じ行動即ち、すべての戦闘ができるようにしておいて、一般法化即ち、恒常法化を検討すべきであるとしているのであります。
- (7) 「剣は磨くべし。用いるべからず。」古今の兵法の鉄則であります。昔から、兵を動かして失敗した例は極めて多いのであります。
- (8) イラク戦争は、千数百年にわたってくり返されてきたイスラム教徒とキリスト教徒の間の、し烈なる戦いの延長線上にあるものであり、また、パレスチナ紛争の延長線上にあるものであります。日本とは、かかわりのないものなのであります。
- (9) それをアメリカに従って、大義なき戦争に出兵し、敢えて火中に栗の如くとび込んで、イラク並びに中東の人達の不興と不信を買うことは、軍事上も外交上もまことに拙劣な政策であると思います。
- (10) 石破前防衛庁長官は、「今イラクへ自衛隊を出さなければ、中東の石油がもらえませんか」とおっしゃいましたが、今までに、いつ親日国イラクが日本に対して石油を止めたのでしょうか。自衛隊を出して、イラク人の親日感情を悪化させることの方がよほど大問題であります。
- (11) この報告書では、少子化によって、自衛官募集が困難になると述べています。もし、ゲリラに対する戦闘までも任務とする自衛隊の海外派兵が、本来任務として、法律によって恒常化し、自衛隊が米軍に従って常時海外における戦闘に参加することになった場合、戦死者が多数出ることになります。そうなりますと、ただでさえ募集難に陥る方向にある自衛隊に入隊する人はほとんどいなくなるでしょう。その時は徴兵制を採用する以外に方法がなくなることは、火を見るよりも明らかであります。かくて、日本人は再び海外で血を流し続けることになるでまいしょう。
- (12) 日本は、人類史上使用された2つの原子爆弾の唯一の被爆国であります。世界の人達も、このことを殊の外気の毒に思い、平和国家として生きることを国是とした日本に、限りなき共感を以って声援をおくっているのであります。ここで、日本の平和国家としての世界における強力な立場をあえて放棄する必要

がどこにあるのでしょうか。

- (13) 小泉総理は、日本が国連安全保障理事会の常任理事国となるために、恒常的に海外へ派兵できる体制をとりたいと考えておられるようにも見受けられます。しかし、平和国家日本が国連安保理の常任理事国になる場合には、「普通の国」として常任理事国になるのではなく、「平和国家」として、「海外派兵は、しない」と宣言したうえで、常任理事国となるべきであります。その方が世界平和に大きく貢献することになり、世界の人々の共感と賛同を受けることになるに違いありません。

5 防衛力の大幅縮減について

- (1) 報告書は、「本格的侵攻に備えた中核的な戦闘力については、不確定な将来への備えとして、適切な規模の「基盤」は維持しつつ、思い切った縮減を図る必要がある。」と述べています。
- (2) 即ち、祖国防衛のための本来の防衛力は、思い切って縮減するというのであります。具体的には
- ア 陸上防衛力は、ただでさえ弱体の戦車・特科（大砲）等の重装備部隊を思い切って縮減する。
 - イ 海上防衛力は、艦艇部隊と航空部隊を共に縮減する。
 - ウ 航空防衛力は、戦闘機を含む航空部隊を縮減する。
 - エ ただし、ミサイル防衛関係即ち、海自のイージス艦、空自の地对空誘導弾ペトリオット、空自の自動警戒管制組織（バッジシステム）は、減らさないようです。
- (3) 何ゆえに、今でも十分でない祖国防衛のための本来の防衛力を思い切って減らしてしまうのでしょうか。報告書はその理由として、
- ア 少子高齢化の進行による自衛官の募集難
 - イ 経済の低成長化
 - ウ 本格的な武力侵攻を行いうる脅威は、当分の間存在しないの3つをあげています。
- (4) これらの3つの理由は、理由にならないものばかりであります。
- ア 先進国はいずれも少子高齢化になやんでいます。しかし、それを理由に防衛力を減らす国はありません。一国の存亡に係る防衛とは、そんなに軽いものではありません。
 - イ 経済の低成長化は、小泉総理が経済学の法則に完全に反して、

不景気の際に超緊縮財政政策をとられたために生じた結果であって、失政のツケを防衛力の弱体化にまで及ぼされたのでは、たまったものではありません。これは、まさに亡国論であります。小泉総理の失政が、遂に防衛力の弱体化にまで及んだのかと嘆かわしい限りです。一日も早く、拡大財政政策に転換して全国の景気を回復し、防衛力をしっかりと維持すべきであります。日本の周辺諸国は、いずれも日本より低い経済力であるにもかかわらず、防衛力を縮減してはいないのであります。

ウ 本格的な武力侵攻を行いうる脅威は当分の間存在しないから防衛力を大幅に縮減するというに至っては、まことに正気の沙汰とは思われません。現在もし、本格的な武力侵攻を行いうる脅威が存在しないのだとしたら、冷戦時代だって存在しなかったとっていいと思います。日本の周辺諸国の軍事力は、ほとんど少しも変わっていないではありませんか。しかも冷戦時代の2極構造が崩れて、日米同盟でさえ頼りにならないかもしれないといわれるほど多極化した時代になったのではありませんか。冷戦時代に比べて、それぞれの国が独力で国を守らなければならなくなっているのが、今日ではありませんか。冷戦時代よりもなお独力による国の防衛が必要になっているときに、本来の防衛力を大幅に減らすことは、もってのほかであります。

(5) 日本は、その周辺に、いつ燃え上がるかもしれない多くの紛争の火種を抱えています。北朝鮮問題、尖閣諸島をめぐる石油資源問題、竹島問題等であります。先般の中国でのサッカーの日中の試合を見ても、これらの火種は、思わぬときに一挙に火をふく可能性を含んでいます。「本格的な武力侵攻を行いうる脅威は、当分の間存在しない」などといって、呑気に構えておられる状態では、ありません。

(6) 報告書は勇ましく、「ミサイル攻撃に対処するため策源地（即ち北朝鮮のミサイル基地）への攻撃能力を持つことにまで言及していますが、一方で防衛力の思い切った縮減を強調しておいて、こんなことに言及することは、まさに張り子の虎であります。

(7) 私が昨年イラク派兵に反対したとき、何人かの人から抗議を受けました。抗議の理由は、ただ1つでした。「北朝鮮に立ち向かうためには、イラクへ派兵して、アメリカから日本を助けてもらう必要があるのだ。」というものでした。私はその時「北朝

鮮に独力で立ち向かう力も気概もなく、自衛隊員を差し出して、アメリカの助けを借りようとする何と情けない考え方の人達だろう。大和魂も地に墜ちたものだ。」とと思いました。このたびの報告書は、今でさえ十分でない日本独自の防衛力をさらに大幅に弱体化しようとしているのです。その結果はどうなるのでしょうか。日本は、ますます、アメリカに対する軍事的依存度を高め、そうなればますますアメリカに追従せざるをえなくなり、まさに日本は「アメリカの弱いポチ」と化して、米軍の行くところ、日本の自衛隊もまた派兵させられ、軍事弱国日本の若者は、徴兵制の下、海外で血を流し続けることになるでありますよう。

(8) 私はこのようにすることが、日米関係を良好に保つことになるとは思いません。率直に言って、原爆投下は人類史上最大のテロ行為であったといえると思います。アメリカは、しっかりと贖罪意識を持ち、日本が平和国家として生きていくことを妨げるべきではありません。日本もまた毅然として、独自の防衛力を弱体化してアメリカに頼り切るようなことはせず、極力自分の国は自分で守れるようにすべきであります。このようにしてこそ、はじめて日米はさらに親密な間柄となって行くことを確信するものであります。

6 サマワにおける自衛隊に対しては、すでに何発もの砲弾が発射されております。しかし、これらは、少し離れたところに落下したり、直撃しても信管が抜いてあったりして、幸いにも自衛隊員に犠牲者は出ておりません。しかし、派遣期間を1年延長するときは、信管のついた直撃弾が飛んで来ることを覚悟せねばなりません。こんな危険な状態にある自衛隊員とその家族の心情を思うとき、いても立ってもおられない気持ちです。サマワは明らかに戦闘地域となっております。貴台におかれては、自衛隊員に対する愛情を根本とされ、また自衛隊員以外ですでに5人の犠牲者が出ていることにも思いを致され、勇気ある決断を以って、派遣期限を延長せず、自衛隊を撤退させられますよう衷心よりお願い申し上げるものであります。

市の財政状況

平成十六年度上半期（四月～九月末）の財政状況が公表されました。市の収入と支出を表でご覧下さい。

今回、公表された財政状況ではコミュニティセンターで戸籍等の証明を発行するため市民サービスコーナー費・地域集会所施設整備補助金、七月の梅雨前線豪雨による災害復旧のための災害復旧費などの増額補正を行いました。その結果、九月末での予算総額は百四十一億六千七百七十万（十六年度当初予算総額は百四十二億二千万）となりました。

各特別会計の執行状況（9月末現在 単位:万円）

会計名	予算額	収入済額	支出済額
国民健康保険	24億6,287	9億 341	11億2,304
老人保健	30億6,196	13億6,220	13億8,580
宅地造成事業	3億6,714	1億2,482	1,593
下水道事業	19億1,779	7億2,486	7億 341
介護保険	17億9,221	7億9,642	7億4,389
在宅介護サービス事業	4億3,020	2億 78	2億 244
合計	100億3,217	41億1,249	41億7,451

市税の収入状況（9月末現在 単位:万円）

税目	調定済額	収入済額	収納率
市民税	9億6,213	5億1,310	53.2%
固定資産税	17億3,751	7億4,401	42.8%
軽自動車税	5,864	5,466	93.2%
市たばこ税	8,321	8,319	100.0%
特別土地保有税	59	0	0.0%
入湯税	482	482	100.0%
都市計画税	2億 60	8,562	42.7%
合計	30億4,750	14億8,540	48.7%

一般会計予算の状況

（9月末現在）

予算総額

141億6,107万円



（単位:万円）

歳出	科目	予算額	支出済額	支出割合
	民生費	29億2,743	13億1,650	45.0%
	商工費	27億9,636	14億7,733	52.8%
	公債費	21億 218	7億7,934	37.1%
	土木費	18億 870	7億8,295	43.3%
	教育費	13億3,119	4億8,465	36.4%
	総務費	10億7,126	3億8,312	35.8%
	衛生費	7億6,837	3億6,611	47.6%
	その他	13億5,558	4億6,543	34.3%
	合計	141億6,107	60億5,543	42.8%

（単位:万円）

歳入	科目	予算額	収入済額	収入割合
	地方交付税	38億7,700	25億3,821	65.5%
	諸収入	29億9,652	8,382	2.8%
	市税	27億1,554	14億8,540	54.7%
	市債	15億9,290	0	0.0%
	国庫支出金	6億8,706	1億6,928	24.6%
	繰入金	5億2,349	1,152	2.2%
	県支出金	4億4,002	1億 601	24.1%
	その他	13億2,854	8億3,821	63.1%
	合計	141億6,107	52億3,245	36.9%

総体結果

今年度の総体も、残すところ二月のスキー競技と中越大地震で延期となったバドミントンのみとなってしまいました。参加された皆さんの成績はいかがでしたでしょうか。

次の大会では、今年以上の成績になるようにがんばってください。



体操競技

期日 十二月五日
会場 加茂高校小体育館

※(1)競技の区分によっては、クラスが混合しているところがあります。
※(2)結果は、個人総合のみを掲載しました。

〔小学男子〕個人総合（タンブリング、円馬、とび箱、鉄棒、柔軟）
①桑原達哉（石川小）②森山重理（加茂南小）③知野健太（加茂小）



〔小学女子〕個人総合（とび箱、単バ、平均台、タンブリング、柔軟）
①桑原千晴（石川小）②高野榮美里（下条小）③吉田知佳子（同）

〔中学生以上男子〕個人総合（ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒、柔軟）①高野雄貴（石川小）②高野耕平（葵中）③金子建三（加茂体操クラブ）

〔中学生以上女子〕個人総合（跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆか、柔軟）
①近藤知秋（石川小）②吉川路子（加茂中）③明田川佐智（加茂南小）
〔特別種目〕かべ倒立▼男子①高野雄貴②高野耕平③川口正太郎（加茂南小）▼女子①横山天音（石川小）②坂井彩音（同）③近藤知秋

倒立歩行▼男子①近藤拓也（葵中）
②高野耕平③湯沢友也（葵中）▼女子①戸島萌美（加茂高）②番場桃子（加茂南小）③近藤知秋
〔会長賞（最優秀選手）〕
男子・高野雄貴（石川小）
女子・桑原千晴（石川小）
〔三葉賞（最優秀新人）〕
鈴木大（葵中）



加茂市のできごと 2004

平成16年の出来事

今年、自然災害が集中した一年で、七月の水害、台風被害、そして十月の中越地震と自然の力の大きさを改めて感じた一年でした。被害にあわれた皆さんの一日も早い復興を祈っております。

ここでは、加茂市の一年のできごとを振り返ってみましょう。

7・13水害 10・23中越大震災

加茂市での、七月の水害では住宅床下浸水や信濃川地域での農作物被害、十月の地震では、けがによる人的被害、住宅への被害などがありました。



平成16年 加茂市のできごと

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|-------------------|----------------------|-------|---------------------------|------------------|----------------------------------|---------------------------|--------------|---------|------------|-----------------|-------------------------|---------|---------------|-------|---------------------|-------------|---------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 8月2日 | 31日 | 23日 | 22日 | 21日 | 16日 | 13日 | 7月11日 | 21日 | 6日 | 6月3日 | 5月3日 | 4日 | 4月4日 | 18日 | 26日 | 30日 | 10日 | 14日 | 1月9日 | 23日 |
| ロシア・コムソモリスク市へ中学生代表団を派遣（～9日） | 加茂青年会議所創立40周年記念式典 | 市議会が三条市など四市へ水害見舞金を拠出 | 臨時市議会 | 水害見舞金を三条市など七市町村に二百七十万円を拠出 | 三条市など被災地へ応援職員を派遣 | 集中豪雨で床下浸水12戸、道路・果樹など被害額概算七億八千万円余 | 参議院議員通常選挙で県選出の市投票率は六三・七四% | 定例市議会（～7月1日） | 加茂川一斉清掃 | 国際交流の集いを開催 | 成人式で四百五十九人が新成人に | 加茂美人の湯で入館者が一日最多の二十九人を記録 | 加茂山一斉清掃 | 第38回雪椿まつり大園遊会 | 臨時市議会 | 大島町椿まつりに親善訪問（～2月1日） | 定例市議会（～26日） | 加茂美人の湯開館1年3カ月で入館者が30万人を達成 | 須田コミュニティセンター開館7年弱で入館者50万人を達成 | 県立加茂病院に開業医と結ぶ病診連携室「かもネット」が設置 |

加茂市のできごと 2004



第38回雪椿まつり (4月18日)
ミス雪椿に渡辺浩子さん、瀬賀恵利美さん、スヴェトラナ アンドリュシチキナさん。歴代ミス雪椿で初めての外国人となりました。



加茂市菊花展 (11月7日～)
冬鳥越に県内各地から 272点の作品が展覧されました。



市制施行50周年記念式典
11月14日、野中広務氏の記念講演も行われました。

2004国内・世界のできごと

- 1月12日 国内で鳥インフルエンザを確認
- 5月22日 拉致被害者家族帰国
- 6月1日 佐世保市で小学生同級生殺害事件
- 7月11日 参議院議員通常選挙
- 18日 拉致被害者家族帰国
- 8月13日 アテネオリンピック開幕
日本は金16銀9銅12を獲得
- 9月1日 北オセチア共和国で学校占拠テロ
- 18日 プロ野球がストライキ
- 10月1日 イチローがメジャー年間安打記録更新 (262安打)
- 11月28日 アルビレックス新潟J1残留決定



オペラ蝶々夫人 (7月4日)
市制50周年を記念し、三浦克次さんも出演されました。



加茂市出身の泉田知事が誕生
10月17日投票の加茂市の投票率は61.8%でした。



コムソ訪問 (8月2～9日)
8回目となった今回は、ラジオ局の訪問もありました。



中越地方植樹祭 (10月23日)
若宮公園では 320本のマツとサクラが植樹されました。

12月	11月	10月	9月
8日	7日	1日	20日
25日	30日	25日	14日
14日	28日	21日	10日
8日	23日	17日	
	22日		
	21日		
	17日		

12月8日	12月25日	12月14日	12月8日	11月7日	11月30日	11月28日	11月23日	11月22日	11月21日	11月17日	10月1日	10月25日	10月21日	9月20日	9月14日	9月10日										
自衛隊のイラク派遣延長せず撤退に関し、小池市長が意見書などを発表会見	定例市議会 (24日)	臨時市議会	市制施行50周年記念式典を開催	加茂西小学校に西児童館を開設	第1回加茂市菊花展を冬鳥越スキーガーデンで開催 (28日)	加茂西小学校に西児童館を開設	市制施行50周年記念式典を開催	被災地の川口町・小千谷市の避難所へ加茂産の新高ナシを寄贈	第37回加茂市展 (11月3日)	第1回加茂市菊花展を冬鳥越スキーガーデンで開催 (28日)	加茂市医師会創立50周年記念式典	県立加茂病院産科診療体制縮小で小池市長が抗議声明発表	商工会議所が地元買物運動で「かもつ子割引クーポン」を発行	県知事選挙で加茂市出身の泉田裕彦氏が当選、市投票率は六一・八三%	ロシア青少年少女民族舞踊「ラーダスチ」加茂公演	県立加茂病院産科の即時再開を求める署名運動が始まる	若宮公園で中越地方植樹祭が開催	新潟県中越地震、道路陥没などで市内三カ所に避難所を設置	被災地の川口町・小千谷市の避難所へ加茂産の新高ナシを寄贈	第37回加茂市展 (11月3日)	第1回加茂市菊花展を冬鳥越スキーガーデンで開催 (28日)	加茂西小学校に西児童館を開設	市制施行50周年記念式典を開催	臨時市議会	定例市議会 (24日)	自衛隊のイラク派遣延長せず撤退に関し、小池市長が意見書などを発表会見

福祉のまちづくり 地域のくらしの相談役

民生委員・児童委員を紹介

暮らしのよき相談役として、厚生労働大臣と県知事から委嘱される民生委員・児童委員が、このたび改選されました。任期は、平成十九年十一月までです。

民生委員・児童委員は、行政と地域の皆さんのパイプ役となり、地域福祉の担い手として、さまざまな問題の解決にあたります。福祉についての相談は、一人ひとりにあった方法が求められます。委員は、皆さんの環境や状況に応じて、最善の対応を紹介します。委員は、皆さんの困ったこと、悩み、心配ごとなどいつでもお気軽にご相談ください。

相談内容の秘密は固く守られます。

【デイサービス】

寝たきり等の人を、平成園・第二平成園で、一日お世話（食事や入浴・軽い運動など）するサービスです。

【短期の入所（ショートステイ）】

介護している人が、介護疲れで少し休みたい・病气や冠婚葬祭あるいは旅行などで介護を必要とする人をお世話できないときに利用できるサービスです。

【老人ホーム等への入所】

常時の介護を必要とする等のため、自宅でのお世話ができなくなったとき、施設に入所して介護を受けるサービスです。



福祉用具の貸出

介護用ベッドや車いすを貸したり、一人暮らしのお年寄りのお宅に緊急通報装置などを設置したりします。



訪問看護

(リハビリテーション)

寝たきりや障害などにより、日常生活で支障がある人に、保健師・看護師や理学療法士が療養上の世話やリハビリテーションを行うサービスです。

ホームヘルパー

高齢や障害などにより日常生活に支障がある人に、食事や入浴の介助、洗たくや買い物などのお世話をするサービスです。



お問い合わせ先

これらのことや、家庭内での困りごと・心配ごとは左のページで紹介する各地区の民生委員・児童委員、または福祉事務所、在宅介護・看護支援センターへご相談ください。

いろいろなサービス制度

紙おむつの購入助成金の支給、一人暮らしのお年寄りや重度障害者のお宅への夕食弁当お届け、タクシーの利用券、重度の障害や寝たきりのお年寄りなどを介護している家族に支給される介護手当などの制度もあります。

各種の融資・補助制度

高齢者・障害者住宅整備資金の貸付や補助、たすけあい資金、生活福祉資金、補装具の購入補助、低利の融資制度がありますのでご相談ください。

市内各地域の民生委員・児童委員さん

委員氏名	電話	担当行政区
小柳 讓二	53-1277	小乙、岩野
小柳 政一	53-1361	上・下高柳
菅家 正子	53-1396	西山
大橋 武司	53-1464	上・中・下大谷
泉田 ミヨ	53-1627	上・下土倉、長谷
高井 亨	53-1676	黒水西・南・上黒水
梅田 四郎	53-1706	黒水北・中・東
香場 多越	52-3201	第1区
指田トシエ	52-8096	第2区、上3区、桜沢の一部
丸川 欣平	52-4454	桜沢
今井 一男	52-3263	秋房
塩原 サチ	52-1359	若宮町1丁目12、13番と16番以降と若宮町2丁目
宇佐美昌子	52-5303	若宮町1丁目1~11、14、15番、新町2丁目の一部
鈴木 繁	52-2802	新町2丁目
小柳 昭二	53-0230	新町1丁目
南山 桂子	52-2571	五番町
古川 澄子	52-4824	上町
市村 正子	52-8526	八幡3丁目
相田 祥子	53-0334	八幡1丁目、2丁目
青木 政實	52-5922	上条、皆川
川口 タカ	52-1335	神明町1丁目
関 キクエ	52-1813	神明町2丁目
菊田 泰策	52-0064	本町、仲町
織田 榮治	52-0368	穀町
金子美智子	52-8421	駅前、番田
荒木 幸藏	52-3726	都ヶ丘、希望ヶ丘
樋口 春實	52-0773	学校町
外石 榮子	52-2195	陣ヶ峰
泉田 京子	52-1262	青海町1丁目
佐野 武	52-1150	青海町2丁目
田代 昭三	52-5736	赤谷、青海町と陣ヶ峰の一部
岡田 ヨリ	52-5066	千刈1・2・3丁目

委員氏名	電話	担当行政区
田村 睦子	52-5087	幸町1・2丁目
長谷川榮子	52-3458	石川1・2丁目
早川 勇	52-9665	第23区
谷口キミ子	53-1070	第24・25区
阿部 芳子	52-5859	松坂町
長谷川貞一	52-0672	岡ノ町、松坂町と矢立の一部
松下 静	52-2998	矢立、松坂町と岡ノ町の一部
早川 芳枝	52-2735	寿町
大塚 優子	52-5827	旭町
涌井 篤子	52-4737	栄町
頓所 芳男	52-3779	新栄町
藤井 キン	52-2590	大郷町1・2丁目
本間 政夫	52-0686	高須町1・2丁目
番場 ヒデ	52-4487	小橋1・2丁目
番場 勇	52-1903	上下条、長福寺
永井 研一	52-1894	早田、上興屋向、小橋2丁目の一部
小野塚憲治	52-7683	中興野、芝野
諸橋秀一郎	52-5541	下興屋向
諸橋 三男	52-4667	中村、柳町
青柳多一郎	52-8083	福島、横江
栗原 玲子	52-7711	天神林、下興野
武石 晃	53-1930	上・中・下鶴森、田中新田
石崎 茂	53-1811	前須田、砂押新田
渡邊 登	53-1996	後須田第1・第2
細野 肇一	53-2021	後須田第3・第4
間 栄一	53-2173	北湯、五反田

主任児童委員

北地区	井上亞機雄	52-3405	
南地区	中山佐和子	52-0310	
葵地区	関 正平	52-5313	
七谷地区	長谷川ふさ	52-1155	
須田地区	更科 正園	52-9830	

文政11年 三条地震

下条村の被害

今年七月の水害、十月の地震など災害に見舞われた年であった。中でも十月二十三日の新潟県中越地震は、マグニチュード六・八という規模で、その後幾度も襲った余震でさらに被害を広がった。

下条は、支配が旗本・溝口氏領と三日市藩・柳沢氏領の西・中・東の三カ村に分村しており、合わせて三百軒余りのところ、地震被害は三カ村全体で、全半壊およそ七十軒であった。

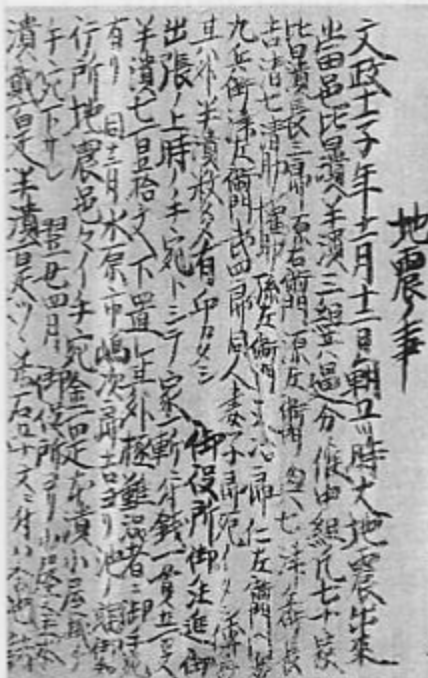
旗本・溝口氏領であった下条中組では、次の家が全壊の被害を受けている。長三郎、源右衛門、源左衛門、与七、津兵衛、長吉、清七、清助、権助、孫左衛門、又治郎、仁左衛門、門兵衛、九兵衛、津左衛門の十五軒

今から百七十六年前の文政十一年(一八二八)の三条地震は、十一月十二日朝五ツ時に起きている。太陽暦に直すと十二月十八日午前八時頃になる。当時の加茂町では全壊十五軒と相当数の半壊、そして即死者一名。鶴森村では順行寺の境内で地割れが起き、赤砂、青砂が噴射するという「液状化現象」も生じている。ここでは加茂町の南側、下条村の状況を見てみたい。

死となつてゐる。そのほか伝兵衛など多数の半壊被害があつたという。

地震後、旗本・溝口氏の池端役所(新発田市池端)より、全

加茂の風土記



文政11年の三条地震、下条中組の記録(牛腸家文書)

壊の家に銭一貫五百文、半壊者に七百五十文が手当として支給され、さらに、水原町の商人市嶋治郎吉から一軒に付き百疋(銭千文)の見舞金が出されて

いる。さらに役所からは、翌年四月に仮設住宅ともいえる小屋掛けをしている家に対して、手当金二百疋(銭二貫文)が支給されている。(以上、牛腸達太郎氏所蔵文書)

下条に限られた史料の中から地震状況を紹介したが、額の多寡は別としても、被災者には領主からの支援があつたことを知ることが出来る。こうした僅かの支援の中で、次の世に向けての復興に、人々は努力を重ねた結果、現在の下条の姿がある。

十月の地震被災地の一日も早い復興と平穏を心から祈りたい。(関 正平)

おごき

社会福祉費寄付金

▼河内幸子さん(故・河内リイさんのご遺族 幸町一)から 十万円

▼佐藤新一さん(故・佐藤安木郎さんのご遺族 大郷町二)から 二万円

▼市村正子さん(故・市村尚紀さんのご遺族 八幡三)から 十万円

▼北陸ガス株式会社から 三万七千円

▼千葉県松戸市常磐平団地自治会から 三万円

▼東京新潟県人会から 四十万円

▼加茂ロータリークラブから 十万円

▼長崎県島原市長・島原市議会議長から 二十万円

▼全国市議会議長会から 五万円



▼全国森林環境・水源税創設促進議員連盟から 三万円
▼全国都市職員災害共済会から 二十万円
十二月十六日、地震災害見舞金を贈る米山稔東京新潟県人会長

訂正とおわび
広報かも十一月号(No.581)十三ページの第三十七回市展・新潟日報美術振興賞で「本多千晴」さんのお名前が間違っておりまして、訂正しておわびいたします。

人口のうごき

12月1日現在

世帯 9,921 (+ 8)

人口 32,766 (-33)

男 15,862 (-20)

女 16,904 (-13)

()内は前月比

(11月異動分)

出生 15(男7女8)

死亡 32(男18女14)

転出 51 転入 35